

カキ ‘刀根早生’ 優良系統の選抜

會田 孝裕・鈴木 勇三・北澤 由美・米野 智弥*・佐藤 康一**

(山形県立砂丘地農業試験場・*山形県立置賜農業改良普及センター・**山形県立庄内農業改良センター)

Selection of the Good Line of “Tonewase” the Cultivar of Japanese Persimmon

Takahiro AITA, Yuzo SUZUKI, Yumi KITAZAWA, Tomoya YONENO* and Yasukazu SATO**

(Yamagata Prefectural Sand Dune Agricultural Experimental Station •
*Yamagata Prefectural Okitama Agricultural Extension Service Center •
**Yamagata Prefectural Shonai Agricultural Extension Service Center)

1 はじめに

‘刀根早生’は‘平核無’の芽条変異であるが、果頂部黒変や、後期落果が多い等の不良系統が多く見られる。そこで、本試験では、上記のような不良形質がなく、かつ優良な形質を持つ刀根早生優良系統の選抜を行った。

2 試験方法

砂丘地農業試験場内の‘刀根早生’(1997年当時14年生)44樹について、no.1~44の番号を付して供試し、1997~2000年にかけて選抜調査を行った。「果頂部黒変」「後期落果が多い」「強樹勢による着果不良」等の形質を持つ系統を除外する対象とし、「収穫期が早い」「多収」「大果」「高糖度」等の形質を持つ系統を選抜の対象として、果実の着色の推移、収量、果実品質、樹勢等についての調査を行った。選抜基準として、各形質とも全供試樹の平均値を求める比較とした。

3 試験結果及び考察

(1) 1997年

果頂部黒変：2樹、後期落果性：3樹、強樹勢：6樹を不良系統として選抜から除外した。また、不良形質の認められなかった樹のうち、収量、果実重、収穫期の早さにおいて平均以上の形質を示した19樹を予備選抜した。

(2) 1998年

収量、一果重、糖度について前年同様に平均以上の形質を示し、かつ収穫期の早さについて問題のなかった系統として、no.5, no.6, no.11, no.12, no.13, no.16及び、1997年に果頂部黒変が認められたものの1998年には認められず、しかも、収穫期の早さ、収量、果実重において優れていたno.39を加え、計7樹について継続検討することとした。

(3) 1999年

収穫期：10月5, 12, 20日に収穫を行ったところ、no.11, no.39において、10月5日収穫の果実数比率が50%以上と高かった。

収量：no.5, no.6, no.39が平均以上であった。

糖度：平均14.4%に対し、no.6が14.9%, no.13が

15.0%と高かった。

果実階級：L級以上の果実数比率がno.5で60%程度、no.13, no.16, no.39で80%程度と大玉傾向にあった(図1)。

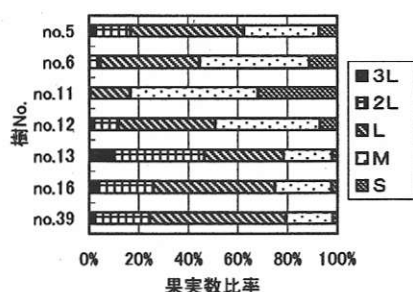


図1 階級別果実数比率(1999)

1999年の調査結果及び過去2年間の成績から、no.5, no.11, no.13, no.16を継続検討することとした。なお、no.39は平成9年と同様果頂部黒変の発生が見られたため検討を中止した。

(4) 2000年

収量：no.5, no.13, no.16で1.5kg/m²以上と問題ない収量であった(表1)。

糖度：no.16が14%を下回ったが、その他はいずれも平均値以上であり、no.13が特に高糖度であった(表1)。

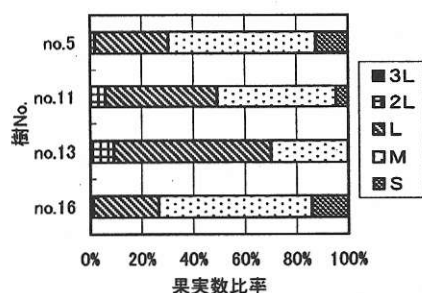


図2 階級別果実数比率(2000)

果実階級：no.13はI級以上70.0%と供試樹中最も大玉であった（図2）。

no.11は平成12年において優良な成績であったものの年により品質のばらつきが大きく、また、no.16は糖度が低いため、この2系統については検討を中止した。

4 ま と め

4年間の調査の結果、44樹中から以下の2系統を最終的に選抜した。

no.5：毎年収穫期の早さ、収量、果実肥大、糖度において良好な形質を安定して示す（表1、図3）。

no.13：樹勢がやや弱いものの、収穫期早く、毎年果実重200g以上、糖度15%程度と非常に優れた形質を示す（表1、図3）。

なお、本試験では1樹ずつの検討であったため、優良形質の安定性についての検討として、高接ぎ及び複数本の苗木を育成しての試験を現在行っている。

表1 4年間のデータ比較

系統	年次	収量 (kg/m ²)	果実重 (g)	糖度 (%)	新梢長 (cm)	収穫期 の早さ
no.5	H9	1.60	210	15.7	32	○
	H10	2.27	258	13.8	31	○
	H11	2.41	196	14.2	31	○
	H12	1.91	181	14.6	34	○
no.11	H9	2.05	190	13.9	37	○
	H10	2.19	229	14.4	35	○
	H11	1.55	169	14.2	26	○
	H12	0.97	189	14.3	32	○
no.13	H9	2.83	230	14.6	23	
	H10	2.62	204	15.0	27	○
	H11	2.05	214	15.0	18	○
	H12	1.62	200	14.9	24	○
no.16	H9	2.86	202	14.0	31	○
	H10	3.08	207	13.8	33	○
	H11	2.16	205	13.9	30	
	H12	1.89	178	13.9	33	○
全供試樹 平均	H9	1.78	202	14.5	36	
	H10	2.24	221	13.8	35	
	H11	2.24	195	14.4	27	
	H12	1.60	187	14.4	30	

※「収穫」「果実重」「糖度」における網掛けは平均以上の数値。「収穫期の早さ」は平均より早かったものについて「○」とした。

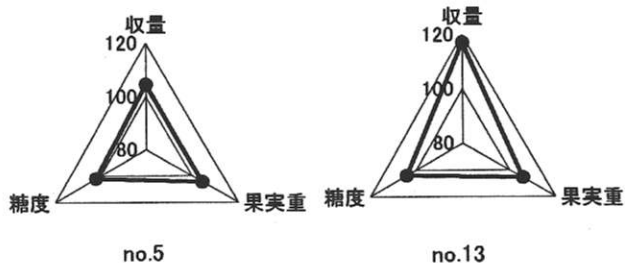


図3 収量・果実重・糖度についての平均との比較（4年間のデータ）